

献 辞

人文社会科学研究科教授 禹 宗 杭

薄井和夫先生は、2018年3月末をもって、本学を定年退職されました。先生は、1976年3月に中央大学商学部を卒業後、中央大学大学院商学研究科に進学されました。同研究科商学専攻博士課程を1982年3月に単位取得退学し、同年4月に埼玉大学経済学部助手として赴任されました。その後、1983年4月に講師、1987年4月に助教授、1998年4月に教授に昇任され、36年間にわたり本学の教育研究に多大な貢献をされました。

先生は、ご在職中、マーケティングの歴史と国際比較に関する研究に尽力されました。マーケティングと社会との関係に焦点を当てるマクロマーケティング研究に軸足を置き、主に米国・英国・日本を対象とした、マーケティングの歴史研究と国際比較研究に力を注がれました。その成果は、学界で高く評価され、著された『アメリカ・マーケティング史研究—マーケティング管理論の形成基盤—』は、第4回日本流通学会賞を受賞しました。そして、英語で刊行された“Marketing and Consumption in Modern Japan”は、第18回日本流通学会賞を受賞しました。この著作は、系列店展開というマーケティング方式が、日本の生活様式に小さくない変化をもたらしたことを、英語圏に広く知らせた点でも貴重です。一方、先生は、知識経営学の分野に領域を広げ、「実践」概念を中心とする、マーケティングの基礎理論を構築する作業にも努力を傾注されてきました。関連する著作の「マーケティング現場における状況特異的知識—関連性理論および実践コミュニティ論の検討—」および「『実践としてのマーケティング』研究と実践コミュニティ—『実践論的転回』によせて—」などは、この分野における問題提起的論考として、広く注目を集めています。先生は、旺盛な著作活動のかたわら、日本商業学会・マーケティング史学会・日本流通学会などにおいて、理事として指導的な役割を演じ、学界の発展に大きく貢献されました。

先生は、教育面でも、学部と大学院においてそれぞれマーケティング論を担当され、自身の理論研究と実証研究の成果をわかりやすく教授することを通して、多くの学生・院生を魅了してこられました。と同時に、学部での演習と博士前期課程・博士後期課程での論文指導を通して、企業・組織や学界で活躍する優れた人を数多く育てあげました。

なお、先生は、2012年4月には経済学部長に選任され、2016年4月まで2期4年間、重責を果たされました。学部長としての在任中、教養学部と経済学部の教員組織を統合し、人文社会科学研究科として改組する困難な作業を全うされたほか、経済学部における3学科制の4メジャー制への改編、夜間主コースの改組、グローバル・タレント・プログラムとダブル・ディグリー・プログラムの創設、およびこれらに伴う入試制度とカリキュラムの改革を陣頭指揮し、大きな成果を収められました。

これらの功績に改めて感謝申し上げますと同時に、今後も健康にご留意され、教育研究に楽しく取り組まれることを祈念申し上げます。